



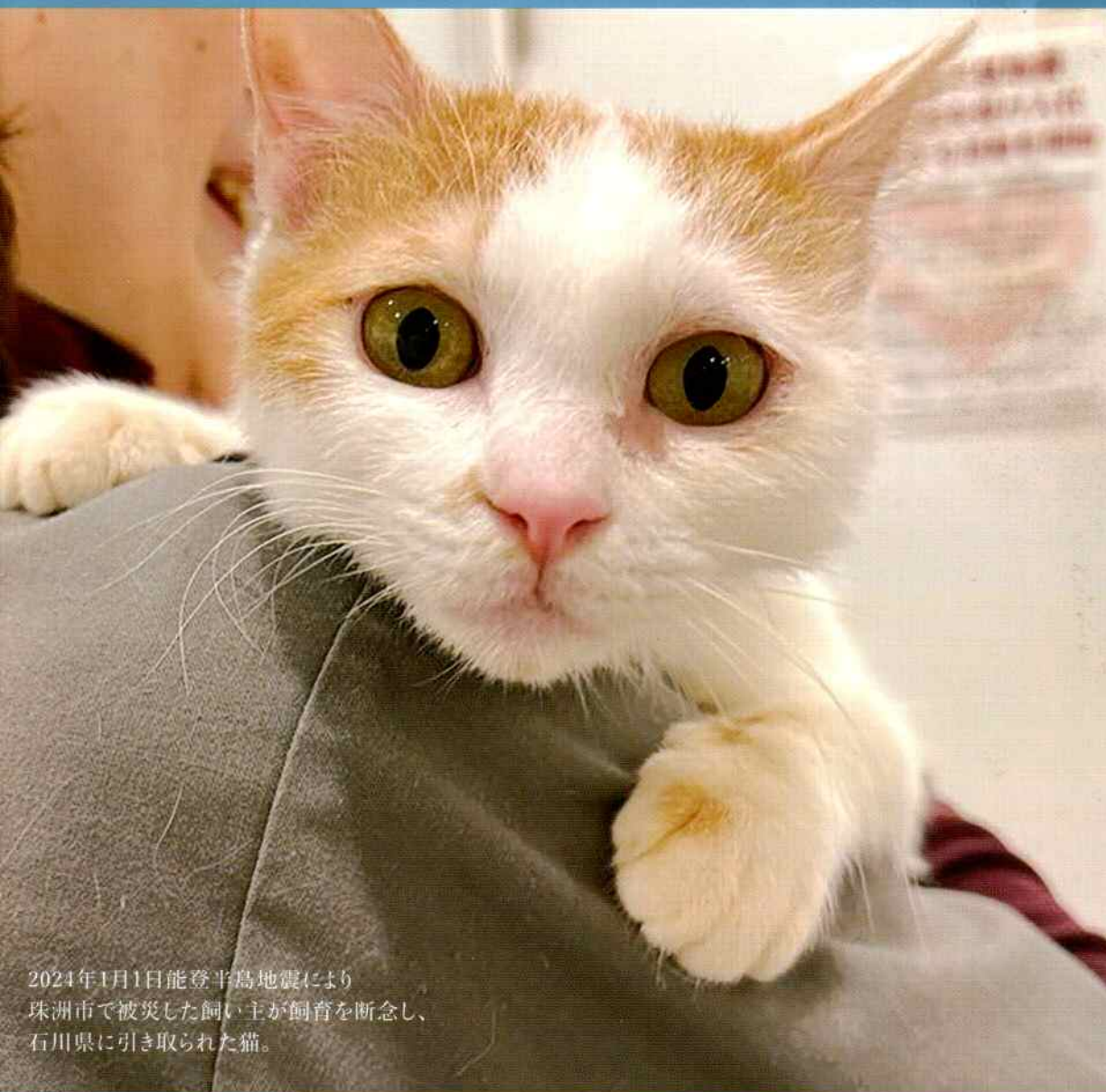
News Letter

Vol.3

2025年

一般社団法人 東京都人と動物のきずな福祉協会

災害時、人と動物を一緒に救わなければ、人命が失われる恐れがある



2024年1月1日能登半島地震により
珠洲市で被災した飼い主が飼育を断念し、
石川県に引き取られた猫。

Tokyo Metropolitan Society for
Human-Animal Welfare

2011年3月11日東日本大震災、仙台市で被災した人からの聞き取り。『『早く逃げねば危ないだろう』とおばあちゃんが言っても、『おれ、どこさも行がね。犬かかえて逃げたって、行くどこないべ。もう死んでもいいがら』とおじいちゃんは言って、逃げようとしなかった。

(新潮社発行『考える人』2012年春号特別報告「動物たちの3・11」写真・文 香取章子)より

能登半島地震・奥能登豪雨被災猫救援活動

日本列島ではいつどこで大地震が発生しても不思議ではありません。
ペットとともに被災して行き場を失ってしまうことは「明日はわが身」。
地震と豪雨の二重災害に見舞われ、
復興が遅々として進まない能登の被災猫救援活動を報告します。

環境省および石川県と連携協働して 被災猫を引き取り譲渡する活動が始まった

昨年1月1日能登半島地震が発生。環境省動物愛護管理室から連絡があったのは1カ月後の2月初旬のことでした。前年末に「広域譲渡モデル事業」への協力を打診されていたのですが、環境省と連携協働して石川県の被災動物を東京に搬送して譲渡を進めることになりました。

私たちは2月6日石川県小松市にある県南部小動物管理指導センターを訪ねてペットの被災状況を聞き、家が全壊あるいは半壊して住まいを失った人たちがペットとともに行き場を失っている現状を実感しました。まず第1便として2頭の猫を引き取り、航空便で東京に搬送したのです。飼い主が被災してペットと共に避難生活を乗り越える見通しが立たず、所有権を放棄して県に引き取られた猫たちです。

その後、環境省によって東京に搬送された被災猫を2月12日第2便として7頭、3月7日第3便として6頭を引き取りました。住む家を失って雪の降るなか放浪していたのか、ほとんどが健康状態に問題のある猫たち。去勢・不妊手術が行われないまま放し飼いにされ多頭飼育となっていた猫たちが少なくありませんでした。

輪島市、珠洲市へ。 被害の大きさ、復興の遅れに思わず息をのんだ

5月9日車で輪島へ。一車線のみが通行可能でしたが、あちこちが陥没していました。金沢方面へ戻る途中、県営のいしかわ動物愛護センターを訪問し、第4便として2頭を引き出し北陸新幹線で東京に。6月19日

第5便として8頭を引き受けました。

奥能登が豪雨災害に見舞われ、緊急の引き取りが増える見通しがあるとセンターの職員（獣医師）より緊急の相談を受けたのは9月下旬。私たちは10月3日のと里山空港に降り、車で珠洲市へ向かいました。まさに山が崩れ、地面が隆起し、水のひかない状態でした。ブルドーザーなどの工事重機が置かれているものの、雨ざらしのままで復旧工事が進んでいるようには思えませんでした。翌日、珠洲市の飼い主が所有権を放棄して県に引き取られた猫4頭を東京へ搬送。家族は元旦の地震で被災し、猫たちと一緒に再建を目指していたのですが、豪雨災害で住居を失い、猫たちを手放さざるを得なくなったのです。

県内では譲渡の難しい、人馴れ困難、高齢、 病気、障害の猫を引き取ることに

私たちは石川県と連携協働して、10月10日第7便として9頭、10月17日第8便として3頭、10月29日第9便として4頭、12月10日第10便として4頭を引き取り、これまでに49頭の被災猫を石川県から引き取っています。県内では譲渡の難しい猫たちを引き取ってもらえたら、との要望に応じて、私たちが引き取って東京に搬送しているのは、人に馴れていない、高齢、病気、障害のある猫たちです。

被災猫たちの医療費と輸送費等、譲渡までにかかる費用を集めるため、9月1日から10月30日までクラウドファンディングにも挑戦。15,612,762円のご支援をいただきました。みなさまからの応援に力をいただき、現在も譲渡活動を続けている次第です。



石川県南部小動物管理指導センターから被災猫2頭を引き取る（2024年2月6日）



金沢からのと里山海道を輪島へ（5月9日）



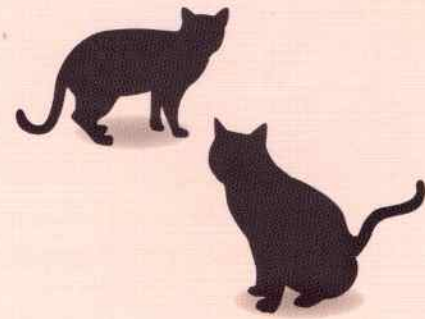
輪島「朝市通り」では発災後の火災で200棟以上が焼失。5月9日時点で焼け跡はそのままだった。



津幡町の森林公園内にあるいしかわ動物愛護センター。石川県が「人と動物の共生する社会の実現」を目指して2024年からの開設・運営を目指していたが、4月中旬のオープン直後から被災ペットの受け入れが最優先に。



いしかわ動物愛護センターの猫舎のひとつ。センターは最大収容頭数が犬30頭、猫70頭。発災から時間が経つにつれ、ペットを手放さざるを得なくなる人が増え、収容頭数が増えていった。



9月下旬の奥能登豪雨では、輪島市役所の前の川も急激に増水。橋まで水が上がった(10月3日)



輪島市内ではいたるところで川が氾濫した。ガードレールにも流木や枝が突き刺さっていて、豪雨災害のすさまじさを実感(10月3日)



珠洲市内。豪雨災害で山が崩れ、地面が割れていた(10月3日)



珠洲市内。土地が隆起して道路が割れ、トンビが空を舞っていた(10月3日)



珠洲市大谷地区(10月3日)



珠洲市内。海岸へ向かう道でも山からの流水で崖が崩れ、地面が隆起して割れていた(10月3日)



石川県能登北部保健福祉センターで被災猫についての話を聞いた(10月3日)



石川県が「令和6年能登半島地震動物対策本部」の車でセンターから小松空港まで猫たちを搬送。



航空便の混雑状態によって何頭乗せられるかが決まる。JAL「ペットとおでかけサービス」で8頭をチェックイン(6月19日)



10月10日に9頭を空輸した時はJALカーゴサポートを利用。羽田に着くまで猫たちは大丈夫か気が気ではなかった。

能登半島からの被災猫たち「幸せになったよ♥」

能登半島地震・奥能登豪雨の被災猫49頭を引き取り、2月5日時点で34頭が譲渡完了、13頭がシェルターで過ごして家族募集中、2頭は入院・治療が続いています。

「自分の年齢を考えて、シニアの猫を迎えたい」と言ってくれる方が増えました。

人に馴れていない、あるいは高齢、病気、障害のある猫たちを家族として迎え、大事にしてくださっているご家族のみなさまに感謝申し上げます。

すべての写真を載せられなくてごめんなさい。



俳優のいとうまい子さんご夫妻とツナちゃん



新しい家族も大福ちゃん(元キュウちゃん)と同郷、能登中部出身



豪雨災害で家族とお別れしたまどかちゃんは漫画家のおざわゆきさんの愛猫に



目鼻の風邪症状がなかなか治らなかったみじちゃんも今は元気



音楽を愛するご夫妻に迎えられたボレロちゃん(元グラちゃん)



明大前動物愛護病院の下重彰子院長の推し家族と暮らすくるみちゃん(元ばたんちゃん)



センターで出産したサラちゃんは甘えっこ



ウイルス感染症でいつも涙目だったハンサムちゃん(元ハンちゃん)



黒猫パピコちゃん(奥)は白黒でんちゃんが大好き。ふたり一緒に素敵な家族のメンバーに。ママは石川県加賀市出身

被災猫たちの医療を担う獣医師さんたち



荏谷動物病院グループ三ツ目通り病院、奥能登の珠洲市からのルルちゃんを診察する崎尾青葉先生



明大前動物愛護病院、院長の下重彰子先生、ムーンちゃん(現はるちゃん)を診察中



モフ動物病院、院長の石森斉子先生、能登中部からの黒猫プーマちゃん(現うすしおちゃん)を診察中



ひがしやま動物病院、院長の東山哲先生、能登中部で保護されたゆすちゃんを診察中



赤坂動物病院、院長の柴内晶子先生(左)、能登中部で保護されたサラちゃんを診察中



人間のおにちゃんたちと楽しく暮らすみかんちゃん



珠洲市で保護されたはるちゃん
(元ムーンちゃん)



Suicaペンギンのキャラクターで知られる
絵本作家・イラストレーターの坂崎
千春さんに迎えられたボタンちゃん
(元ライトちゃん)



荏谷動物病院グループ・三ツ
目通り病院で麻酔下での抜歯
を含む歯科処置を受けて健康
になった碧(あお)ちゃん



緊張モードだったレオンちゃん(左)も、もち
ちゃんと一緒にだからハッピー♪



豪雨の危機を乗り越えたマリー
ちゃん(元マリちゃん)



「半野良」と伝えられたハクちゃん
も、お家で快適生活



下重先生イチ推しの家族に迎えら
れたあんすちゃん(元るみこちゃん)



ククちゃんを迎えて、高齢のご両親も笑顔
いっぱい



豪雨で家族とお別れしたミントちゃん



()内は
石川県が飼主から
聞き取った名前または
いしかわ動物愛護センターで
呼ばれていた仮称です。



人馴れ途上の「ののちゃん」は、
マイペースの暮らし



ハルちゃんは大家族のアイドルに



能登のライフラインの復旧にも関わりの
ある公務員宅に迎えられたくーちゃん



新しいお家に順応中の
ハチちゃん

メディアで取り上げられました



NHK「首都圏ネットワーク」
2024年2月22日放映



「日テレNEWSカルチャー」



「毎日新聞」2024年9月20日

八丈島からやって来た猫たちも、幸せになったよ♪

一昨年末八丈島の住民が東京シェルターシェアリング神田神保町を訪れ、こう訴えました。「島には野良猫がいっぱい。手術して元の場所に戻しても、強い潮風に吹きさらされて生きていかれません。人口が少ないため譲渡にも限界がある」

八丈島は伊豆七島に属しますが、東京都八丈町。私たちは昨年1月25日八丈島へ飛び、現状を視察するとともに保護猫4頭を連れて帰って来ました。母猫と子猫2頭、右眼球が飛び出して早期の治療が必要だった生後4カ月の子。緊張の強かった母猫も子猫たちもオープンシェルター保護猫譲渡会で次々とお縁が結ばれ、今はそれぞれの家族と幸せに暮らしています。



強い潮風に吹きさらされながら生きる母猫と子猫たち。写真の3頭を東京に連れて帰った



保護猫たちと一緒に飛行機で八丈島から羽田に到着。



琥珀ちゃん

母猫の琥珀ちゃん。緊張の強かった琥珀ちゃんも家族との暮らしに馴れて来ました。毛並みも肉づきもまるで別猫。



ハチちゃん

ハチちゃんもすくすく育ちました。パパによれば「最近ママにべったり。ママが猫っ可愛がりするので、超甘えん坊になっています」



ニオちゃん

茶トラのニオちゃんは、ズーノシス(人畜共通感染症)でもあるクリプトスポリジウムという原虫が見つかりましたが、自己免疫力で乗り越え、今はすっかり元気です。



メロディちゃん

全身状態が悪く、眼球が腫れて飛び出していたメロディちゃんも、今では「走り回ってイタズラもしますが、夫も息子も私もメロメロです」(ママ)

東京の猫たち、お家の子になって、もう大丈夫♪

私たちは中間支援の非営利組織として相談に対応してアドバイスするのが基本の活動ですが、「第一種動物取扱業」として都に登録されている施設「東京シェルターシェアリング神田神保町」を運営・管理していることから、猫の引取を相談されることが少なくありません。しかし、現時点ではどこからも補助・助成はなく、みなさまからのご寄付と私財を投じて活動を続けていますので、対応には限界があります。動物病院と連携して感染症の管理も徹底されている施設のため、たとえ完全室内飼育の飼い猫であっても、メディカルチェックなしでの預かり・引取はできません。行政(都または区市町村)からの相談、または行政と連携協働する団体・個人からの相談には対応が可能です。



豊島区
てんちゃん



豊島区
つなちゃん



豊島区
ビワちゃん



豊島区
さくらちゃん/たしずくちゃん



豊島区
珊瑚ちゃん



新宿区
たくちゃん



北区
幸ちゃん



墨田区
メイプルちゃん



墨田区
味噌ちゃん



世田谷区
リオンちゃん



世田谷区
花子ちゃん



世田谷区
ダリちゃん



世田谷区
ラファエルちゃん



大田区
メルローちゃん(左)
ビノちゃん



江東区
じゅんちゃん



江東区
りくちゃん(右)
みるちゃん



江東区
ももちゃん



江東区
マリアちゃん



江東区
みみちゃん(右)
ビビちゃん

東京シェルターシェアリング神田神保町での行事他

オープンシェルター保護猫譲渡会

月2回シェルターで暮らす保護猫たちの譲渡会を開いています。人に馴れていない猫、高齢、基礎疾患、障害のある猫も少なくありませんが、健康状態をできるだけ安定させ、社会化。お家に迎えようというお気持ちのある方とじっくり面談し、健康状態、性格や行動についてご説明してマッチングしています。



往診・定期健康診断

千代田区と東京都人と動物のきずな福祉協会、ちよだニャンとなる会と協定を結ぶ荻谷動物病院グループの三ツ目通り病院から定期的に獣医師さんと愛玩動物看護師さんが往診。猫たちの健康診断が行われています。動物の病気も予防、早期発見、早期治療が肝心。検査や治療の必要な猫は、後日、病院に連れて行きます。



暁星学園チャリテ委員会

千代田区にあるカトリック系中高一貫校、暁星学園チャリテ委員会の高校生4名と先生2名がシェルターを訪問。エトワール祭(文化祭)でのバザーの売上の一部をご寄付として「飼い主のいない猫の保護活動に使って」とちよだニャンとなる会にお届けいただきました。



東京ボランティアセンター・市民活動センター

東京ボランティアセンター・市民活動センターからの依頼で中学生・高校生のボランティアグループVIOLET!!を協会で受け入れました。保護猫・保護犬の現状と動物愛護活動について知りたいという中高生の要望に応えたものでした。「なぜ猫の殺処分の方が多いの?」など、熱心な質問が次々とあがり、こちらもデータに基づく現状をお話。保護猫たちとの触れ合いも体験していただき、みなさん笑顔いっぱい、大満足のプログラムとなったようです。



聖心インターナショナルスクール

聖心インターナショナルスクール(渋谷区)は、約50カ国から学生が集う国際色豊かな、カトリック系の女子校。同校のボランティアグループ「Social Service Council」の学生13名と先生1名がシェルターでボランティア活動を行ないました。「Oh! So Sweet♡」「Lovely♡」と感嘆の声をあげつつ、施設の清掃や猫のトイレ掃除、保護猫たちの社会化(おもちゃで遊ぶ)。明るく生き生きとした活動でした。



企業のCSR J.P.モルガン

企業のCSRとして、J.P.モルガンの社員のみなさんが月2,3回、定期的にシェルターでボランティア活動を行っています。

CSR(Corporate Social Responsibility)とは、企業の社会的責任の意味。米国ニューヨークに本拠地を持つ、グローバルな金融機関である同社では、社員がボランティア活動に積極的に参加しています。最近では、環境・動物保護活動のプログラムに人気があるとか。1回の活動に参加するのは5~8名。ファミリーやフレンドの参加もOKです。脚立に乗ってキャットウォークを拭き上げる、トイレタリーを丸洗いする等、エネルギーに清掃活動に励んでくださって、こちらも助かっています。



漫画・島崎規世

ご支援・寄付・募金のお願い

人と動物を包括的に支援する私たちの活動は、みなさまからのご支援・寄付・募金によって支えられています。お金を出すことも素晴らしい社会貢献活動です。どうぞご支援、寄付・募金をお考えください。

■ 年会員 (年会費1口 5,000円~/年)

当協会の会員となって活動を支援してください。会費は年1回クレジットカードの自動引き落としが便利です。お振込みでも受け付けています(メールまたは電話でお名前とご住所をお知らせいただき、「会員希望」とお伝えください)。会員には、ニュースレターやお知らせをお送りします。



■ マンスリーサポート (500円~ご希望の金額/月)

毎月定額をご支援いただくことでシェルターの維持・管理、猫を保護して譲渡する活動が安定的に継続できます。
※クレジットカードでの自動引き落としのみ対応。サポーターには、ニュースレターやお知らせをお送りします。

■ 寄付・募金

いつでもご寄付・募金を受け付けています。1回1,000円からご希望の金額を、クレジットカードでの引き落としをご利用いただくか、右の金融機関にお振込みください。

■ 遺贈寄付・生前贈与

ご家族あるいはご自身の財産を動物愛護・動物福祉の活動に役立てたいとお考えの方が増えています。当協会では、エバークリーン税理士法人と連携して専門的なアドバイスを提供し、遺贈寄付あるいは生前贈与を受け付けております。フォーム、メールあるいは電話でご相談ください。

■ Amazonほしい物リスト

シェルターでは、猫のトイレ砂、ペットシート、療法食のフードなど、大量の消耗品を必要としています。ぜひAmazonのほしい物リストから消耗品をご支援ください。



■ 賛助会員 (賛助会員費 3,000円/年)

各都道府県・区市町村で地域に根差して活動する団体・個人のボランティアのみなさん、当協会の賛助会員になりませんか。人にも動物にもやさしい社会づくりのためにネットワークを強め、広げましょう。

賛助会員には、ニュースレターやお知らせが送られるほか、必要に応じて

- アドバイス&サポート
 - セミナー受講
 - 物資の支援
- などの特典があります。

■ 支援・寄付の振込先

■ みずほ銀行 九段支店(532)(普通)3223779

■ ゆうちょ銀行

・ ゆうちょ銀行の口座間で振り込む場合

【記号】11300 【番号】04128351

・ ゆうちょ銀行に他の金融機関からお振込みの場合

【店番】138 【口座番号】0412835

・ ゆうちょ銀行 振替口座の場合

【口座記号番号】00180-7-266589■

口座名義は、いずれも

「一般社団法人東京都人と動物のきずな福祉協会」

(イッパンシャダンハウジン)

トウキョウトヒトドウブツノキズナフクシキョウカイ)

東京都人と動物のきずな福祉協会ニュースレター 発行編集人 香取章子

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-23-4 コーシンビル3階

TEL 03-6261-6967 MAIL methawelfare@gmail.com

HP <https://metha-welfare.com>

Facebook <https://www.facebook.com/101224622856786>



HP



Facebook



Instagram



ハゲ